

# 後世に語り継ぎたい人たち

Motto shiritai Sayama Vol.1

## 🏠 狭山の原風景を後世に伝える

温かみのあるタッチで描いた「民話絵」の世界を確立し、童絵作家として活動する池原昭治さん。約50年前から狭山を活動拠点とし、地元の自然の美しさを伝える数々の作品を生み出してきました。



狭山市に婚姻届けを提出された方に、「婚姻記念証」をお贈りしています。池原さんが描いた童絵に、詩人・吉野弘さん直筆の「祝婚歌」を載せ、裏面には提出された婚姻届を複写しています。

池原さんが移り住んだ当時の狭山市は、雑木林が広がる自然豊かなところでした。地元のお年寄りを訪ね、聞き書きした民話は300以上。民話にふれるうち豊かな自然の素晴らしさに気付かされ、「この情景を描きたい」と絵筆をとったといいます。狭山の民話は、自らが原作・演出・作画をしたテレビの「まんが日本昔ばなし」でも放映されました。今後は自身が「資料」となり、愛する狭山への恩返しとして、地元の魅力を伝えていければ、と思いを語ってくれました。



**池原昭治さん (童絵作家)**  
1939年香川県高松市生まれ。水野在住。日本各地の民話を描く「童絵作家」として全国で活動。民話や祭りを題材とした著作も多数。

🍵 チョットモう一杯！

池原さんが広報さやまに連載中の「残しておきたい狭山の風景」はこちらから

## ✍️ 吉野弘の詩を育んだ狭山の地

昭和47年から35年間、狭山で創作活動をした詩人の吉野弘さん。長女・久保田奈々子さんから、吉野さんと狭山の関わりについてお話を伺いました。

「祝婚歌」「夕焼け」「I was born」など多くの秀作を残し、戦後詩壇に功績を残した吉野さんは、詩人としての円熟期を狭山で過ごしました。奈々子さんは、狭山について「この地の自然が父の詩作に影響を与え、代表作が数多く生まれた場所」と語ります。当時一家が住んでいた北入曾の茶畑で出会った、茶農園の若旦那で前狭山市長の仲川幸成さんとのやりとりをきっかけに、散文詩「茶の花おぼえがき」が生まれ、それらを収録した詩集に『北入曾』と題するほど、狭山の地を気に入っていたそうです。今は慈眼寺(入間川地区)の墓地に眠っています。



吉野弘さんの長女 久保田奈々子さん

### 吉野弘さん (詩人・故人)

1926年山形県酒田市生まれ。1972年狭山市北入曾に移る。以降35年にわたり、創作活動を行う。その後静岡県富士市に転居し2014年に87歳で逝去。



遺族提供



▲詩集『陽を浴びて』より「草」



◀(左)『贈るうた』 (右)『素直な疑問符』

### 狭山の作家

**土家由岐雄さん (童話作家・故人)**  
28年間狭山市で暮らす。代表作は『かわいそうなぞう』。子どもころの純真な心を取り戻して詠む俳句「童句」の創始者でもあります。

**さねとうあきらさん (児童文学作家・故人)**  
その土地に密着した創作民話は「さねとう民話」といわれ、狭山の文化や民俗性をもとに、創作民話や戯曲『さやま民話風土記』も手掛けました。

### 🎭 伝統芸能を後世に伝える



**山本凜太郎さん (大蔵流狂言師)**  
人間国宝の山本東次郎を大伯父に持つ、柏原在住の大蔵流狂言師。初舞台は4歳で演じた狂言「伊呂波」。狂言「入間川」は、かつての入間川の情景に思いをはせながら演じています。



写真提供：大蔵流山本狂言事務所